

歴史館だより

No.129

2026.1.30
茨城県立歴史館

目次

展示紹介 企画展（アーカイブズ展）「史料を集め、伝え、そして編む－東京大学史料編纂所の過去と現在－」／新収蔵品展「集まれ!!歴史館のかくれた仲間たち」

資料紹介 つくば万博（国際科学技術博覧会）と万博中央駅

トピックス 令和7年度 下半期の教育普及事業

敬白起請文之事

右意源者今度日極之城被下海之文
主在對 上振清忠者之海之備固
一職 所奉下之文之備固
手あふ入るる名備中なる数方其方
ぬ下之文之并其方之其方之其方
之其方之其方之其方之其方之其方
之其方之其方之其方之其方之其方
梵天帝教実て之日本国中大神祇
八幡大菩薩大満大日主大神即教養
属神討其討可也蒙者之河海之件

嘉永元年六月三日

羽柴秀吉

嘉永元年

展示紹介 1

企画展(アーカイブズ展)

「史料を集め、伝え、そして編む—東京大学史料編纂所の過去と現在—」

令和8年2月7日(土)～3月22日(日)

■展示概要

東京大学史料編纂所は、日本に関する史料の研究、編纂及び出版を行う研究機関です。全国各地の史料調査を行い、そこで見出した史料を収集・複写して史料集に編むのが基本業務ですが、なかにはその過程において同所の所蔵に帰した史料も少なくありません。

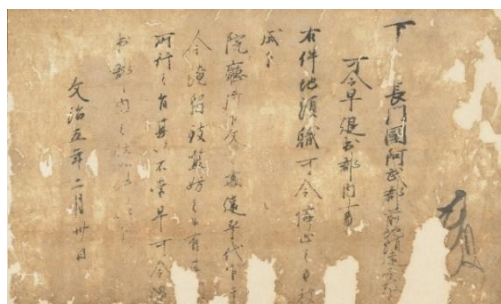
本展では、同所が所蔵している国宝・重要文化財の史料を中心に展示するとともに、中学・高校の教科書などに頻出する史料も多く展示します。また、同所内に新設された史料学協創センターの取り組みを紹介し、今後の史料学のあり方などについて考えていきます。



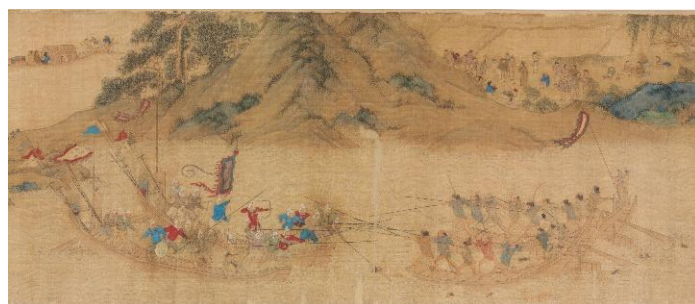
■各章概要

第1章 史料編纂所の至宝

史料編纂所が所蔵する国宝・重要文化財をはじめとする貴重史料を紹介していきます。具体的には源頼朝や源実朝、足利尊氏といった鎌倉幕府・室町幕府の将軍や、今川義元・上杉謙信・北条氏政・豊臣秀吉・徳川家康ら戦国大名の書状を一堂に展示します。また、「倭寇図巻」や「たはらかさね耕作絵巻」など教科書に頻出する絵画史料も合わせて紹介します。



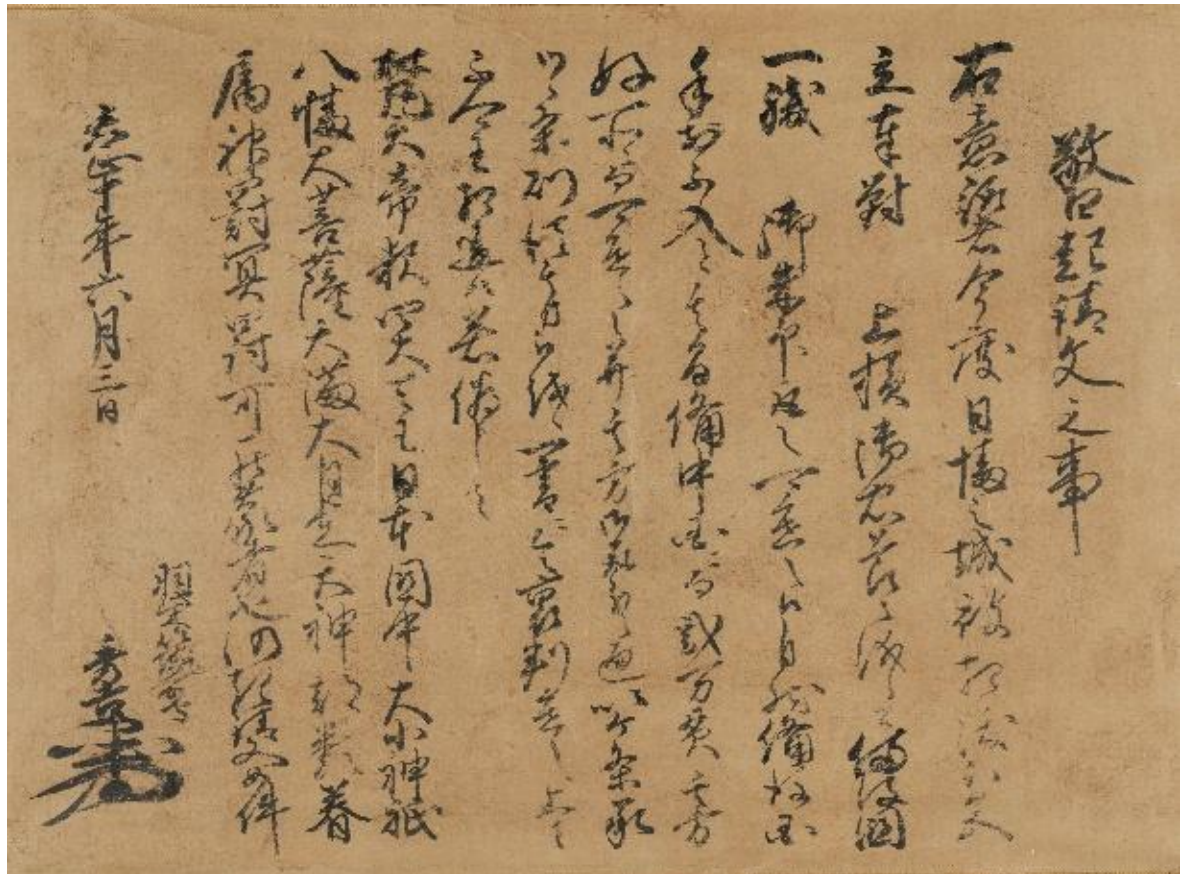
源頼朝下文（史料編纂所蔵）



倭寇図巻（史料編纂所蔵）

本章で注目すべきは、羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）が本能寺の直後に出した「羽柴秀吉起請文」が全国ではじめて公開される点です。これは、秀吉が毛利氏配下の上原元将（宛先は切断されているものの内容から元将に比定）に宛てた起請文です。元将は秀吉の調略に応じて寝返った人物で、本起請文はその功績に対して出されたものです。秀吉は元将に備後一国の支配権を約束し、織田方が備後国を入手できない場合は同国内に希望する2万貫を与える

と破格の約束をしています。しかしその後の歴史が示すように、その約束が果たされることはありませんでした。本文中で「上様」（織田信長）への忠節を求めていることから、秀吉は、本能寺の変における信長の横死を知らないで記しているものと考えられます。本史料は、発給された日付はもとより、毛利氏攻めを任されていた秀吉による毛利氏家臣とのやり取りの実態が分かる興味深い内容となっております。



羽柴秀吉起請文（史料編纂所蔵） 初公開

敬白起請文之事

右意趣者、今度日幡之城被相渡、被色立、奉対 上様御忠節之儀候間、備後国一職、御朱印取之可進之候、自然備後国手前不入者、其間備中国二而弍万貫、其方好所二而可進之候、并其方御取分之通、以ケ条承候之条、則從其方被越候一書二令裏判進之上者、不可有相違候、若偽申者、

梵天帝釈・四天王・日本国中大小神祇・八幡大菩薩、天満大自在天神部類眷属神罰・冥罰可罷蒙者也、仍起請文如件、

羽柴筑前守

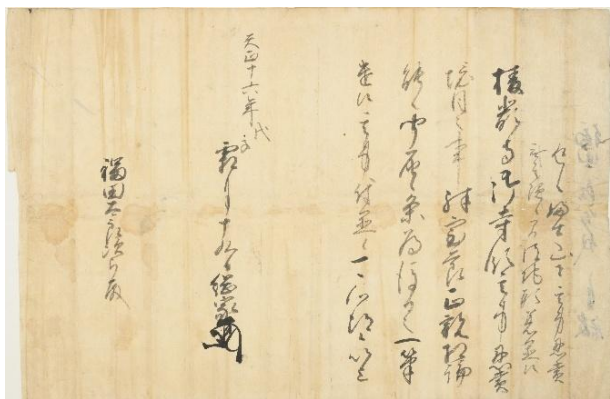
秀吉（花押）

天正十年六月三日

○充所を欠く。

第2章 茨城ゆかりの史料

「東鑑」や「実隆公記」などの重要文化財を含む貴重史料に、本県と深く関わる部分が多く含まれていることを、展示史料を通して紹介していきます。また、東大史料編纂所が本県で史料調査を行い、影写本や写しを作成してきたことが分かるように、当館所蔵の史料原本と影写本を対比的に展示することで同所の役割を紹介します。



笠間綱家判物（福田文書のうち）
（史料編纂所蔵） **初公開**



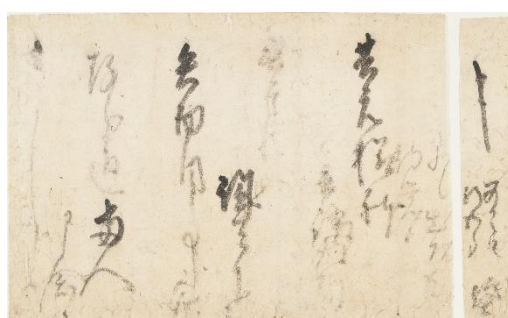
土浦城之図（史料編纂所蔵）

第3章 史料学協創センターの新しいころみ

これまで史料編纂所が担ってきた史料の収集・複写などの役割・業務について、復元模写や修復・復元作業に用いられる道具の展示を通して紹介します。また、今年度新たに設けられた史料学協創センターが今後担うべき役割について、デジタル技術の紹介などを通じて展望します。



洛中洛外図屏風（左隻）（復元模写）
（史料編纂所蔵）



織田信長自筆書状
（史料編纂所蔵） **初公開**

■関連行事

(1) 連続講演①「史料を集めてつなげる-実隆公記・言継卿記を手がかりに-」

日時：2月11日(水・祝) 14時～15時30分(受付13時30分開始)

会場：茨城県立歴史館 講堂

講師：末柄豊氏(東京大学史料編纂所教授・史料学協創センター長)

定員：150名(事前申込制) 要入館券

(2) 連続講演②「常陸が天下をゆるがし信長をうごかす-絹衣相論と史料編纂所所蔵史料-」

日時：2月22日(日) 14時～15時30分(受付13時30分開始)

会場：茨城県立歴史館 講堂

講師：金子拓氏(東京大学史料編纂所教授)

定員：150名(事前申込制) 要入館券

(3) 連続講演③「『倭寇図巻』を読む」

日時：3月7日(土) 14時～15時30分(受付13時30分開始)

会場：茨城県立歴史館 講堂

講師：須田牧子氏(東京大学史料編纂所准教授)

定員：150名(事前申込制) 要入館券

(4) 関連講座「はじめての古文書体験講座」

日時：2月15日(日) 13時30分～15時00分

会場：茨城県立歴史館 講堂

講師：畑山周平氏(東京大学史料編纂所助教)

定員：20名(事前申込制) 小学4年生～高校生(保護者の参加可)

(5) ワークショップ①

日時：2月23日(月・祝) 10時30分～12時00分、13時30分～15時00分

会場：茨城県立歴史館 講堂

講師：高島晶彦氏(東京大学史料編纂所技術専門職員)

山口悟史氏(東京大学史料編纂所技術専門職員)

内容：和綴本の作成を体験するワークショップ

定員：20名(事前申込制)、午前の部・午後の部それぞれ10名ずつ

対象：中学生・高校生(保護者の参加可)

(6) ワークショップ②

日時：3月14日(土) 13時30分～15時00分

会場：茨城県立歴史館 講堂

講師：宮崎肇氏(東京大学史料編纂所特任研究員)

村岡ゆかり氏（東京大学史料編纂所特任専門員）

内容：歴史史料の影写・模写の技術を体験するワークショップ

定員：20 名（事前申込制）

対象：中学生・高校生（保護者の参加可）

（7）展示解説

日時：2月11日（水・祝） 2月22日（日） 3月7日（土）各回とも10時30分～

会場：茨城県立歴史館 第3展示室（1階）

担当：展示担当者および東大史料編纂所員

申込：事前申込不要 要入館券

（史科学芸部 歴史資料課 課長代理兼首席研究員 山縣創明）

展示紹介 2

新収蔵品展 「集まれ!!歴史館のかくれた仲間たち」

令和8年2月7日(土)～3月22日(日)

■展示概要

当館は、茨城県域の歴史に関わる資料を収集・調査し、展示や刊行物、各種講座をとおりしてその価値や魅力を紹介するとともに、先人が残してくれた貴重な資料群を次世代に守り伝えていくことを使命としています。本展では、当館が近年収集した考古及び美術・工芸資料を中心に、その一端をご紹介します。

■各章概要

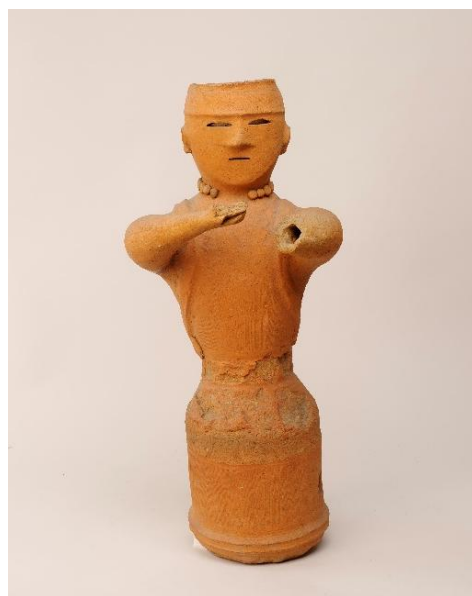
(1) 考古

考古分野で令和元年度以降新たに寄贈された資料は122点に上ります。時代別の内訳をみると、最も多いのが弥生時代で56点と半数近くを占め、次いで多いのが古墳時代で44点となっています。このように、大多数が弥生時代と古墳時代の資料であることが近年の収集状況の特徴といえます。

左の写真は、筑西市に所在する弥生時代の再葬墓遺跡と推定される北原遺跡で出土した弥生土器です。この遺跡で出土した土器が破片を含め50点まとまって寄贈されました。写真の土器は口縁部を欠くものの、現存で62cmあり、胴部の中ほどに人面が描かれていることが注目されます。弥生時代の人面付土器は顔を立体的に表現するのが一般的で、線刻された人面は珍しいものです。右の写真は県内で出土した人物埴輪で、襷をかけた様子から女子を表現したものと考えられます。左手は欠損していますが、右手には何かを持っており、指の位置から考えると器ではなさそうに思えます。写真では分かりづらい表現を実物でご覧いただければ幸いです。



弥生土器 人面線刻のある壺
(※人面線刻箇所)



埴輪女子

S

(史料学芸部 学芸課 副主任学芸員 皆川貴之)

（２）美術・工芸

美術・工芸分野における令和元年度以降の収蔵品は、寄贈品 137 件、寄託品 86 件、計 223 件に上ります。当分野では、これらの資料の一部を出陳するほか、平成の晩年に購入した資料を交え、ここ 10 年ほどに収蔵された新たな資料を展示いたします。

近年の収集状況をみると、刀剣、拵、刀装具などの武具類が 156 件と全体の 7 割近くを占めている点は注目されます。そこには近世の水戸藩領で製作された刀剣や、いわゆる水戸金工とよばれる刀装具のほか、笠間藩や土浦藩の刀工の作品も含まれています。こうした県内全域広域にわたる刀剣・刀装具コレクションの拡充は、近年の収集状況の一つの特徴といえます。さらに、これまでと同様、幕末志士たちの書跡や、林十江や立原杏所といった近世水戸画壇の書画など、水戸藩に関する作品も 60 件近くあり、江戸時代の当県の様相を、より体系的に研究・展示が行えるようになりました。

ここでは展示に先がけて、2 点ほど出陳作品を紹介いたします。

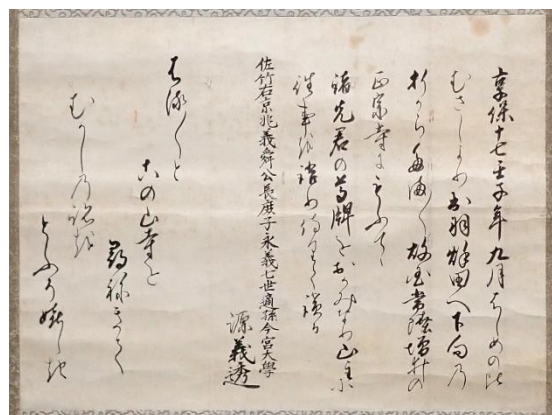
左の写真は、秋田に国替えとなった佐竹氏の家臣・今宮氏の末裔である源義透^{よしすく}（1691～1753）が、武蔵国から秋田に向かう途中で、佐竹氏ゆかりの正宗寺（茨城県常陸太田市）に参詣したときに詠んだ和歌です。

「はるばると この山寺を 尋ねきて むかしの跡を とふに嬉しき」

義透が正宗寺に参詣したのは享保 17 年（1732）9 月はじめのことでした。佐竹氏が秋田に移封されてから 130 余年経ってもなお、故国常陸への思いがあった様子が見えられます。

右の写真は、水戸藩に仕えた山内養春（1757～1819）による山水図です。網代や帆船、雁の列、雪山などがあらわされていることから、中国・洞庭湖周辺の八つの景色（瀟湘八景）を描いた可能性も考えられます。養春について、江戸時代後期の画論書『古画備考』には、幕府の御用絵師を務めた木挽町狩野家の狩野養川^{こののぶ}院惟信に絵を学んだと記されており、近世水戸藩の画人たちを考える上で重要な人物といえます。当館ではこれまで彼の作品を所蔵しておらず、新たに本資料を購入して収蔵品に迎え入れました。今後、近世水戸画壇や江戸時代における瀟湘八景図の展開といった、様々な視点からの研究・展示が見込まれます。

当館の研究・展示は、寄託品・寄贈品を中心とする収蔵品によって支えられています。改めて当館に貴重な作品をご寄託・ご寄贈いただいた皆様に感謝を申し上げますとともに、今後とも当館の活動にご理解・ご協力を賜れば幸いです。



和歌 源義透筆



山水図 山内養春筆

（史料学芸部 学芸課 学芸員 蔀政人）

資料紹介

つくば万博（国際科学技術博覧会）と万博中央駅

「国際科学技術博覧会（科学万博つくば 85）」は、現在のつくば市御幸が丘をメイン会場として、昭和 60 年(1985) 3 月 17 日から同 9 月 16 日まで 165 日間開催されました。本県を会場とした国家的な重要行事であり、当館には表題や資料内容に「国際科学技術博覧会」のワードが含まれる行政文書が 180 点、行政刊行物が 214 点、さらに写真資料等が保存されています。その中でも、今号では、旧国鉄が会期中に臨時駅として設置した「万博中央駅」に関する資料を紹介します。

1 関連交通施設調査報告書（昭和 56 年 3 月）

右の資料は（財）国際科学技術博覧会協会が（財）運輸経済研究センターに委託した、鉄道と自動車による輸送対策の研究報告書です。

鉄道と中距離バスと駅前広場の 3 分野からの研究で、そこでは土浦駅と牛久駅からのバス輸送案が検討されており、臨時駅を設ける案がこの時点では議論されていないことが判ります。興味深いのは八郷町（現石岡市）柿岡にある地磁気観測所を移転し、土浦まで直流近郊電車を延伸し、関東鉄道常総線を電化する案なども検討されていたことです。

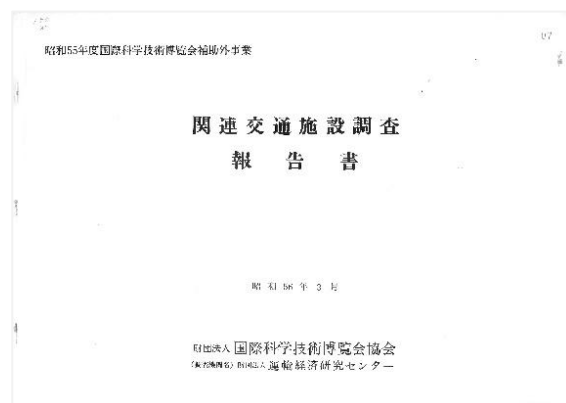


写真 1 関連交通施設調査報告書（表紙）
（財）国際科学技術博覧会協会

2 牛久荒川沖間仮駅設計案（日本国有鉄道東京第一工事局）

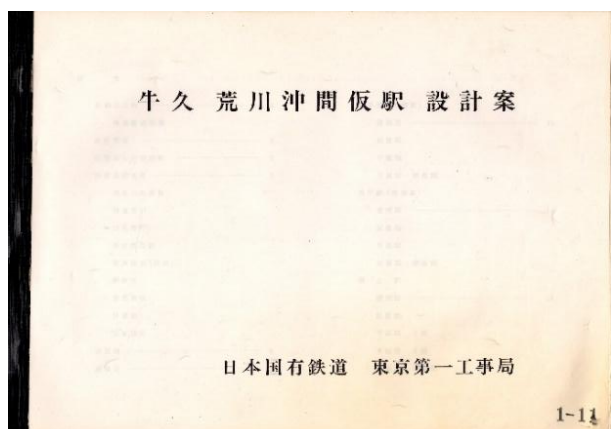


写真 2 牛久荒川沖間仮駅設計案（表紙）
日本国有鉄道東京第一工事局



橋上駅透視図

写真 3 橋上駅完成図（18頁）

国際科学技術博覧会の観客人員は2,000万人、その半数1,000万人が鉄道利用客と見込まれました。資料は、常磐線の起点である日暮里駅より約54.5キロメートルに位置する牛久荒川沖間に仮駅を設置し、744万人をこの駅よりバスで会場に輸送することを想定して設計されたものです。仮駅以外には、関東鉄道の水海道から100万人、特急・急行停車駅の土浦から80万人、牛久から団体客40万人、東北本線の古河、小山の両駅から合わせて36万人が来場することを計画上見込んでいます。

駅の構造としては、片側地平駅案、両側地平駅案と橋上駅案の3案が検討されましたが、設計案にみられる橋上駅(写真3)ではなく、地上改札口が1箇所の片側地平駅が採用され、「万博中央駅」と名付けられました。開業中の様子は、当館が所蔵する「広報広聴課移管写真」から垣間見ることができます。(写真4、写真5)



写真4 万博中央駅

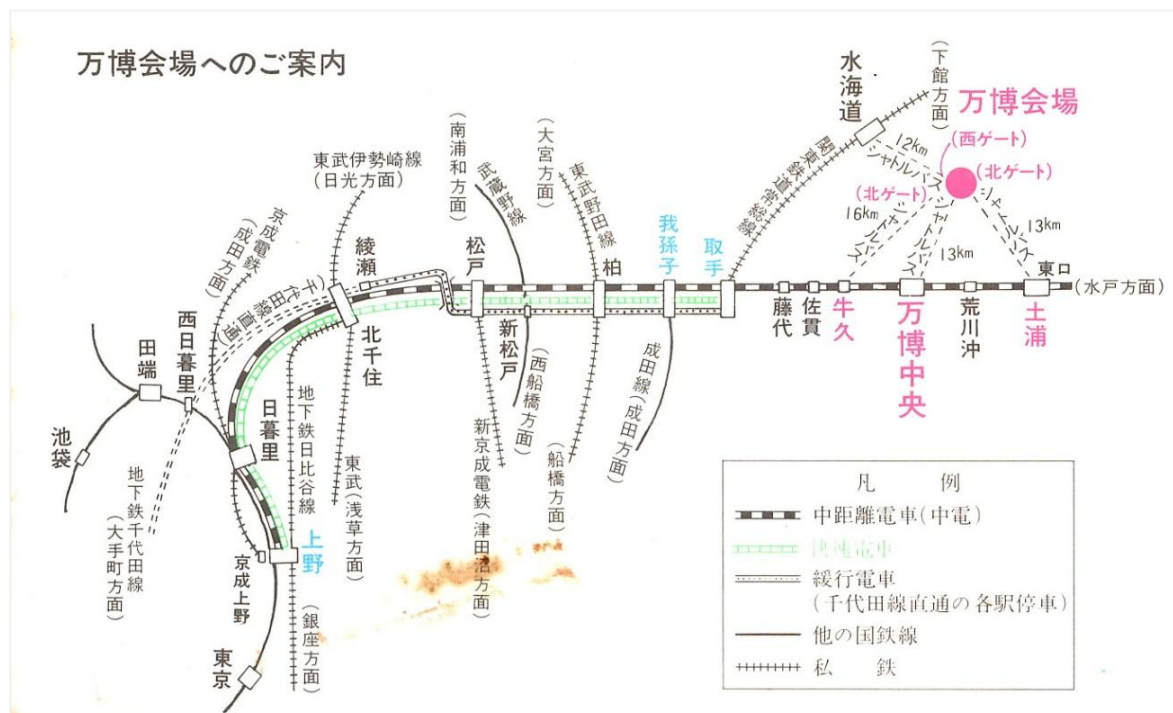


写真5 万博中央駅

3 時刻表 常磐線 (科学博覧会用) 国鉄・東京北鉄道管理局 60.3

取手・上野方面 時刻表		常磐線 (科学博覧会用)		時刻表		時刻表	
昭和60年3月17日～9月16日							
国鉄・東京北鉄道管理局 60.3							
科学万博一つくば'85							
テーマ=人間・居住・環境と科学技術							
期間=昭和60年3月17日～9月16日							
公開時間=3月17日～4月25日 9時30分～19時00分							
4月26日～9月16日 9時00分～21時00分							
会場=茨城県筑波研究学園都市							
(表) IV-A-0054							
取手・上野方面		時刻表		時刻表		時刻表	
常磐線		(科学博覧会用)					
昭和60年3月17日～9月16日							
国鉄・東京北鉄道管理局 60.3							
科学万博一つくば'85							
テーマ=人間・居住・環境と科学技術							
期間=昭和60年3月17日～9月16日							
公開時間=3月17日～4月25日 9時30分～19時00分							
4月26日～9月16日 9時00分～21時00分							
会場=茨城県筑波研究学園都市							
(表) IV-A-0054							
取手・上野方面		時刻表		時刻表		時刻表	
常磐線		(科学博覧会用)					
昭和60年3月17日～9月16日							
国鉄・東京北鉄道管理局 60.3							
科学万博一つくば'85							
テーマ=人間・居住・環境と科学技術							
期間=昭和60年3月17日～9月16日							
公開時間=3月17日～4月25日 9時30分～19時00分							
4月26日～9月16日 9時00分～21時00分							
会場=茨城県筑波研究学園都市							
(表) IV-A-0054							

前頁の下図はパスケースに入れて携行する「科学博覧会用常磐線時刻表」(部分)です。時刻表は、赤字が特急で、青字が臨時列車「エキスポライナー」を示しています。L特急「ひたち」号は土浦に停車し、万博中央駅は通過しています。「エキスポライナー」は土浦始発で、万博中央と取手に停車し、我孫子まで運行している他、一部列車は上野まで運行しました。取手に停車するのは、関東鉄道常総線との接続のためと考えられます。

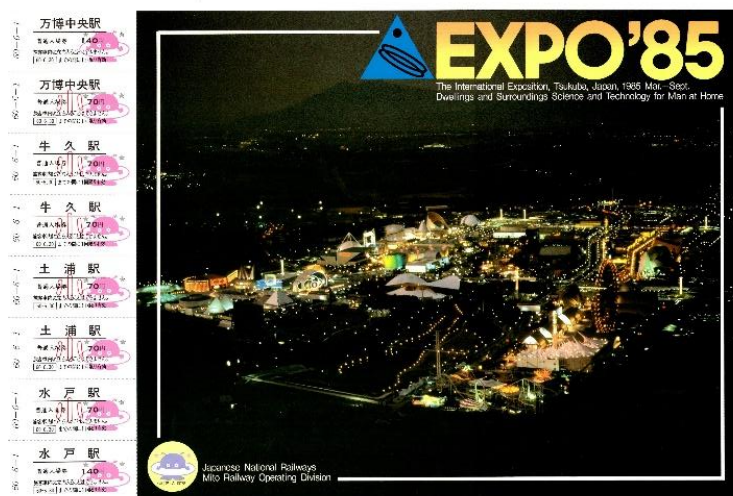


上の図は、「科学博覧会用常磐線時刻表」の一部にある「万博会場へのご案内」です。これにより、鉄道を利用した場合の会場へのアクセスがわかりいただけます。

4 記念切符 (小児用入場券)

万博中央駅、牛久駅、土浦駅、水戸駅の小児用入場券が8枚セットになった記念切符です。

今日眺めると、当時を蘇らせる華やかな会場夜景です。



5 駅名標「万博中央（ばんぱくちゅうおう）」

国際科学技術博覧会（つくば科学万博）の観客輸送のため、うしく（牛久）～あらかわおき（荒川沖）間に開業した臨時駅「万博中央」の駅名標です。

同駅は、万博開幕直前の昭和 60 年 3 月 14 日に開業し、閉幕日の 9 月 16 日を限りに廃止されました。地元牛久市から、駅設置の要望があり、廃止から 13 年後になる平成 10 年(1998) 3 月 14 日、約 100m 日暮里方に「ひたち野うしく」駅が開業しました。

写真 6 はアーカイブズの部屋「茨城の鉄道－はつかり、ひたち、T X－」

（会期：令和 7 年 10 月 4 日～11 月 24 日）において出陳した際のものです。



写真 6 「茨城の鉄道」展展示中の駅名標
（背後は同駅空撮写真）

6 昭和 56 年～昭和 57 年 常磐線牛久駅・荒川沖駅間臨時駅建設関係綴（行 81-2752）

当館所蔵の行政文書で、以下の件名が綴られています。作成部課は土木部監理課で、同課内の資料と考えられ、写し（コピー）が多く含まれます。

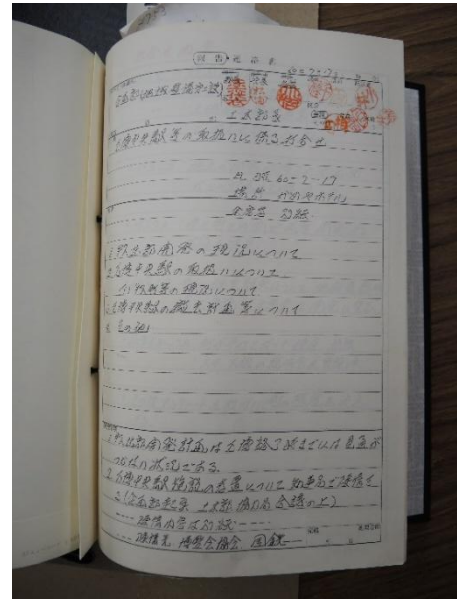
駅候補地への立入 国際科学技術博覧会関連公共事業内訳 常磐線臨時駅建設計画調書 臨時駅会場間バス停留所改修調整会議 臨時駅バスターミナル基本設計連絡会 科学博関連臨時駅広場打合せ 駅前広場(常磐線臨時駅)観客誘導施設の実施設設計委託 臨時駅設置工事に係る工事用道路及び工事用踏切確保並びに地元対策 学園西大通り線常磐線臨時駅ホームとの交差部分工事 国鉄常磐線臨時駅駅前広場工事施行委託など

7 昭和 56 年～昭和 61 年 常磐線万博中央駅用地賃貸関係綴（行 81-2753）

当館所蔵の行政文書で、作成部課は土木部監理課です。簿冊（フラットファイル）の原表題は「万博駅跡地用地関係 61. 3. 27」で、万博会期中の 7 月、8 月頃から県と牛久町、国鉄間で万博閉幕後の万博中央駅の取扱いに関する打ち合わせが行われていることがわかります。先述したとおり「万博中央駅」の跡地に、後に「ひたち野うしく駅」が設置されますが、万博開催時から地元牛久町（当時。61. 6. 1 から牛久市）から存置要望があったことが本資料から知ることができます。



写真6. 7. の行政文書



万博中央駅の取扱いに係る打ち合わせ

(当館HP 閲覧室のご案内) 6. 7. で紹介した行政文書の閲覧はコチラ

<https://rekishikan-ibk.jp/archives/reading-room/>

(史料学芸部 行政資料課 資料調査専門員 富田任)

令和7年度 下半期の教育普及事業

■日曜歴史館

下半期は、当館職員による3つの講座を開催し、多くの方々にご受講いただきました。第7回以降も受講者を募集しております。詳細は、ホームページ「日曜歴史館」をご覧ください。

第4回（10月5日）	〈企画展関連〉近世の育子策と間引き教諭	当館 廣瀬 昌子
第5回（12月14日）	一橋徳川家2世当主・徳川治済とその時代	当館 武子 裕美
第6回（1月11日）	元治元年の徳川慶喜	当館 由波 俊幸
第7回（2月8日予定）	『礪川役用日記』にみる水戸藩附家老中山家	当館 沼澤 佳子
第8回（3月1日予定）	『源氏物語』と常陸	当館 飛田 英世



■歴史館いちょうまつり（11月1日～11月24日）

今年も、歴史館のいちょう並木が黄葉する11月に、ライトアップやイベントを開催しました。8日、9日、2日間は、10時30分から15時まで、庭園及び館内にてイベントを開催しました。「古文書相談会」、「チャレンジ！昔のあそび」、「鉄道制服体験&展示でDEクイズ」など当館出展のイベントをはじめ、「子ども伝統文化フェスティバル」や「雅楽鑑賞会」等のコンサート、「人力車乗車体験」、「きもの体験」、「お茶会」等の体験イベント、大学生による学校資料の解説等を開催し、各会場で来館者の皆様に楽しんでいただきました。また、13日には、高校生による「いちょうまつり県民の日コンサート」を開催しました。

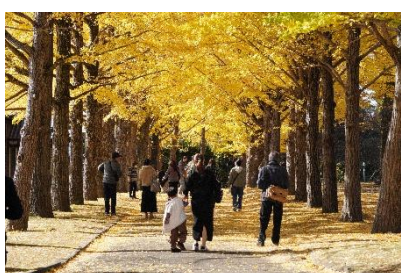
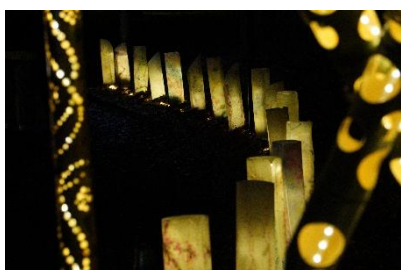


15日、16日の2日間は、ナイトタイムミュージアムを開催し、17時30分から19時45分までの間、展示室を無料で開放しました。旧水海道小学校本館でのプロジェクションマッピングは、18時から各日4回上映しました。

15日には、女優の羽田美智子さんをお招きし、当館館長と対談するスペシャルトークショーを開催しました。歴史館の敷地内にある旧水海道小学校本館は、羽田さんの高祖父で宮大工であった羽田甚蔵さんが設計・建築した縁があります。地元の思い出話や、茨城県の魅力などについてトークが展開し、会場は笑顔あふれる和やかな雰囲気に包まれました。



夜間の庭園では、1日から24日までの24日間、ライトアップを実施しました。今年も、県内外各地からたくさんの方にご来館いただき、いちろうの黄葉やライトアップを楽しんでいただきました。



■大人の歴史倶楽部「箏曲体験・演奏会」（9月21日）

取手市文化連盟水野箏曲会の水野紀美子氏をお招きし、講堂にて開催しました。「おぼろ月夜」や「さくら」等の演奏を楽しみました。



■こどもの歴史くらぶ

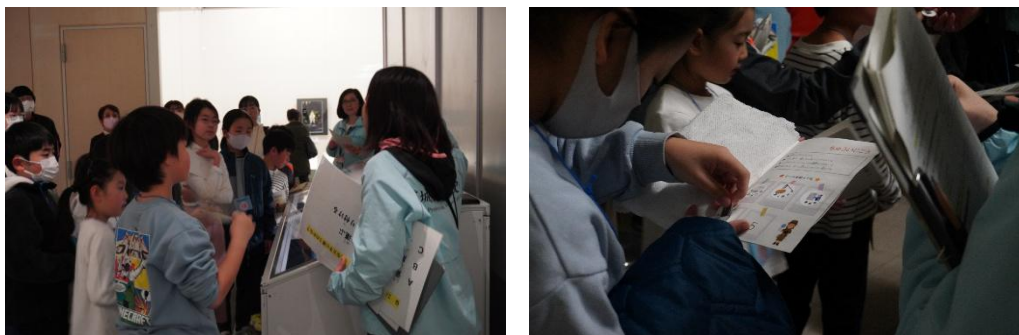
「忍者あそび」(11月30日)

NPO法人水戸子どもの劇場による「忍者あそび」を開催しました。講堂及び庭園にて行い、様々な修行を通して忍者を目指します。今年は、大人忍者対子ども忍者で行った剣術の修行が盛り上がりました。

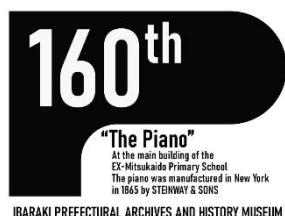


「歴史館探検ツアー」(1月18日)

解説とともに展示室や収蔵庫などを見て回る人気のイベントです。普段は見ることのできない歴史館の裏側に、目を輝かせる子どもたちの姿が印象的でした。



■いにしえのピアノ 160 年記念イベント



旧水海道小学校本館のピアノ室で保管している「いにしえのピアノ※」が、今年製造から160年となることを記念して、様々なイベントを開催しました。

※ Steinway&Sons (スタインウェイ&サンズ社) が慶応元年(1865年)に製造、平成2年(1990)から3年(1991)にかけて修復

秋のいちよう並木ストリートピアノ (11月22日)

春に続いて、今年2回目となるストリートピアノを開催しました。当館庭園のいちよう並木に設置したピアノを誰でも弾くことができるイベントです。いちようの葉が舞い散る中、たくさんの方に、いちよう並木とピアノ演奏をお楽しみいただきました。



いにしえのピアノ限定公開（11月22日）

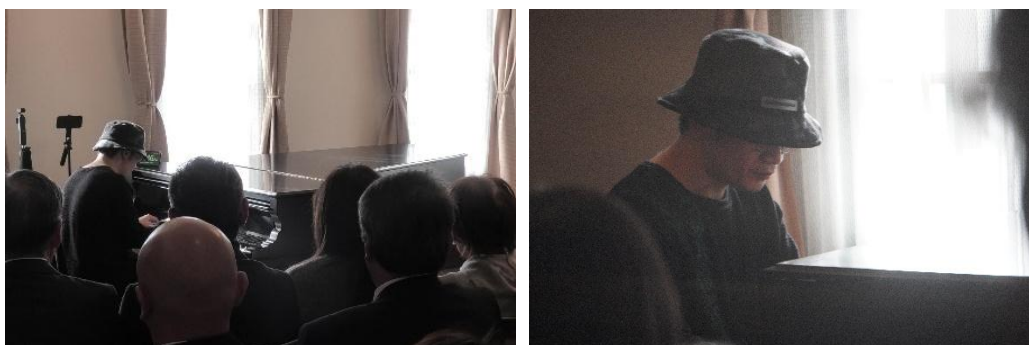
普段は見ることのできない「いにしえのピアノ」を公開展示しました。当日、ストリートピアノと併せて、たくさんの方々にご覧いただきました。



160年記念ピアノコンサート（12月13日）

「いにしえのピアノ 160年記念イベント」最後のイベントとなるコンサートを開催しました。「いにしえのピアノ」と、最新鋭自動演奏ピアノ「SPIRIO」、最古と最新のスタインウェイが競演する特別なコンサートです。ピアニストの菊池亮太氏をお招きし開催しました。

第1部の「いにしえのピアノ」コンサートは、当選した30名のみが聴くことができるコンサートです。いにしえのピアノと同時期に生まれたビュッシーの「月の光」や「沈める寺」を演奏いただきました。いにしえのピアノが持つ優しい音色と160年の歴史を演奏で伝えました。



第2部の「SPIRIO」コンサートでは、150名の参加者が加わり、ピアノコンサートをお楽しみいただきました。前半は、「いにしえのピアノ」のセレモニーを開催し、いにしえのピアノが歩んできた歴史や水海道小学校との繋がりを伝えました。コンサートでは、自動演奏を用いたアレンジで、会場は盛り上がりを見せました。また、参加者からリクエストを募り、

「ボヘミアンラブソディー」や「恋人たちのクリスマス」、ベートーヴェンの「悲愴ソナタ」等、6曲の即興メドレーも演奏いただきました。

今年5月から開催してきた「いにしえのピアノ 160 年記念イベント」は、本イベントで幕を閉じました。今後も、「いにしえのピアノ」を活用したイベントを開催してまいります。



■歴史館ボランティア

今年度も、歴史館ボランティアに学校団体を対象とした旧水海道小学校本館、旧茂木家住宅の解説をはじめ、歴史館まつり、よろいかぶと体験、いちようまつり、いにしえのピアノ限定公開、十二単試着体験等の様々なイベント運営にご協力いただきました。また、今年度からは、「古民家再生プロジェクト」の一環として実施している旧茂木家住宅での野菜づくりや大掃除にもご協力いただいております。



各イベントについてのお問い合わせは、

茨城県立歴史館 教育普及課 、TEL : 029-225-4425

または、ホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。